と同じ様な大整理の計画が、今々進められつゝあるのだ。

今迄賞与の低下、昇給率の低下、手当、残業の削減取上げ、慰安会費天引、スピード・アップに依る労働強化等々凡ゆる手段をつくして最大限的に従業員の労働条件を低下せしめつゝ、辛じて東京市電整理敢行迄持ちこたへて来たが、東京市電の整理決行に自信を得て、今や一大挑戦の巨弾を放たんとしてゐるのだ。

三、過去の斗争批判

憎むべき資本家共の死物狂ひの攻撃は、間断なく続けられた。

幾度、賃下げは勿論、あらゆる産業部門に於て強行され、此の暴圧に生活の根底をおびやかされて来た。遂に堪へ切れなくなつた労働者は、断乎として争議を敢行して来た。十年昔の積極的な攻撃のストライキは、始んどその影を潜め、近年の争議は、その殆んどが生活擁護の為の消極的な争議であつた。

我等は何れの斗いも激烈な斗いに拘はらず、その始末には労働者の敗北に終つて来たのだ。

交通産業ゼネストを目標に、相当長期の戦備を整へた当局の交通統制も、横浜、東京両市電に於ける狂暴なる大弾圧の前には、些も力も尽く遂に敗北に終つてゐる。

斯うした生々しき敗北の実情を目の前に、マザ〳〵と見せつけられつゝ、果して我等は如何にして戦備を整へたか？我等は如何に斗つて来たか？

我が愛友会は、毒ガス問題以来の永い傳統と労働組合よりも、むしろ従業員の親睦会かそれ以上に脱却し得ず、その組織を統制の上に、常に依存し来つた事を終戦後の衝突部分的な斗争が如何に物語つてゐるかを学び得ない何なる全組合統一的な斗争を起さんと、自助会、電労と共に共同斗争委員会を組織し進んでは、局斗同盟の結成に迄参加し、戦線の統一にと進んで来たのである。

我々は昨年末から昭和七年度予算人件費削減反対斗争を局斗と共に斗い、